

アジア研究教育ユニット 令和3年度教育研究報告書

事業課題名	フィリピン研修
代表者名	安里和晃
事業概要 (600字程度)	<p>本事業は、授業＋学習支援ボランティア＋フィリピン研修の3つの柱から構成される。フィリピン研修は、前者2つを経験することの上に成り立っている。学習支援ボランティアでは、フィリピン系児童・生徒の通う小中学校に学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援をおこない、多文化の抱えるさまざまな問題に直面してもらう。そして、教育面におけるそうした問題が、単に学習の遅れにより生じているのではなく、貧困要因、移動要因、社会環境要因、家族要因、生物学的要因といった多様な要因に起因することを理解する。学習支援を通じて得られたこうした経験を授業のなかでまとめ、フィリピン研修において、フィリピン政府在外フィリピン人委員会に対してフィードバックをおこなう。同委員会は日本向け移民に対する渡航前研修を実施しているが、このフィードバックは、これから来日する人々に重要な示唆を与えることになる。なおフィリピン研修では、英語で数回のプレゼンテーションを実施し、質的インタビュー調査も実施する。さらに、フィリピン大学アジアセンターでディスカッションもおこなうことから、英語の実践面を鍛えることができる。本年度も新型コロナウイルスの影響により、フィリピンへの渡航は中止となったが、フィリピン系住民を中心とする世帯に食糧支援という形で訪問し聞き取りを行った。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>まず、京都市内の小中学校でおこなう学習支援ボランティアについて。本年度は小学校および中学校の教諭を3名招聘し、多文化の取り組みに関する学びを深めることを目的として勉強会を開催した。勉強会には5名の学生が参加した。学習支援ボランティアにおいては一学期は新型コロナ禍で小中学校の休校期間があったが、夏休み明けからは徐々に学習支援を再開することができた。学習支援を行った学生によると、休校中に日本語を忘れてしまった子どもや学習意欲を失った子ども、生活リズムが乱れた子どもなどに対応する必要があり、移民の子どもが抱える課題を現場で通常以上に実感した。移民に関する問題を検討していく上で非常に重要な体験であるといえる。</p> <p>次に、フィリピン研修について。例年は授業と学習支援ボランティアに参加している学生がフィリピンで研修を受けるが、本年度も渡航がかなわなかった。代わりに、昨年度同様に国内研修というかたちに変更し、フィリピン研修を実施した。具体的には、フードバンクなどと連携しながら京都、滋賀、三重、愛知、長野などに住む外国人住民を訪問し、食糧配布をかねて聞き取りをおこなった。必要に応じて休業支援金や緊急小口資金の申請などもおこなった。実施日は2021年10月20日、11月13日から16日、12月3日から12月4日、2022年1月7日から11日、密を回避するためにも学生は各日程最大4名とした。訪問時にはマスクの着用、消毒、ソーシャルディスタンスの確保など感染症対策に留意した。参加学生からは「外国人住民からみた日本社会を知ることができた。今まで自分が見てきた社会と全く異なるものだった」、「外国人住民といっても背景は多様で、在留資格などによって受けられる権利に制約があることがわかった」、「暖かく迎えられて驚いたと同時に嬉しかった」といった感想が寄せられた。このように多くの外国人住民から直接お話をうかがえる機会は貴重であり、学生にとって印象深い体験と学びになったといえる。</p> <p>このように例年とは異なるものの、本年度も本事業を実施することができたことを高く評価している。</p>